

視察日：平成29年10月24日（火）～25日（水）

## 視察都市及び視察項目

北海道帯広市 ・公共交通政策について ・フードバレーとかちについて

### 1日目 公共交通政策について

帯広市は、穏やかに傾斜する雄大な十勝平野のほぼ中心に位置し、市域の約60%は平坦、他は日高山系の山岳地帯で、619.34平方キロメートルの市域面積のうち市街地となっている部分は約16.5%で、人口167,640人のうち90%が市街地に居住しているという地域です。路線バスの利用者は昭和55年をピークに平成13年時点では3割減少し、乗合バス事業の需給調整規制の撤廃や採算性の問題で既存路線を廃止したことにより、バスを利用できない地域が発生したため、平成13年に帯広市バス交通活性化基本計画を策定し、現在に至るまで地域公共交通網形成のため、さまざまな取り組みを行っているので視察研修先として選定しました。

農村部の新しい交通システムとして、大正地区では平成16年4月からデマンド型乗合タクシー「あいのりタクシー」、川西地区では「あいのりバス」を本格運行開始し、川西地区では中学校と連携し登録や予約について学校を通じて行い、部活動後の生徒の移動の足として活用されるなど、利用者は増加していました。

一方、自家用車の普及に伴い路線バス利用者の減少がとまらないため、平成20年に「帯広市地域公共交通総合連携計画」を策定し、連携計画に基づき、国からの補助事業としてバス利用者の促進のために、「新規路線の実証運行」「通勤送迎バスの実証運行」「帯広バスマップ作成」「出前講座の実施」など行っていました。

取り組みの中で、とても驚いたのは事業者による取り組みです。

事業者の戸別訪問による営業活動を通じて市民はなぜバスに乗らないのか、を調査研究した結果、バスが不便と思っているのではなく、乗り方がわからないということがわかり、「バスの乗り方試乗会」「目的地検索アプリ」「沿線の観光をプラスした路線バスパック」「エリアを絞った目的別時刻表」など、市民の不安を解消する取り組みは、素晴らしい取り組みだと感じました。この結果、利用者数の減少は止まり、横ばいを推移しています。

また、新たな取り組みとして平成24年度からは70歳以上の方は帯広市内の路線バス、あいのりタクシー、あいのりバスを無料で利用できる「高齢者おでかけサポートバス事業」を始めました。その結果、平成24年度からはバス利用者が増加し、高齢者の健康といきがづくりの支援、積極的な社会参加の促進は進みましたが、この事業にかかる事業費も年々増加しており、平成24年度の事業費は168,772千円、平成29年度の見込みの事業費は202,482千円。バス利用者の増加は素晴らしい結果ですが、事業費も年々膨らんでいくことには考えさせられました。帯広市では、行政だけでなく事業者と連携し、バス利用の取り組みを広げているところは非常に感心しました。

## 2日目 フードバレーとたちについて

フードバレーとたちを始めるきっかけになったのは、市長から「人口が減少したら税収は減る。であれば事業者の方たちの業績を上げて、税収を確保していこう」というような話があったからのようです。十勝は1市16町2村で構成されている自治体で面積は10,831平方キロメートル、人口343,000人。この事業を推進するにあたり、十勝の強みは何なのか、を徹底的に調査したそうです。その結果、十勝は国内有数の農業地帯であるということを確認し、「地域の強みである農業を成長させ、それを基盤とした新たな産業を創出し、十勝から世界に向けて価値を発信する」をもとに様々な取り組みを行っていました。フードバレーとたち推進協議会は産・学・官・金の41団体で構成され、帯広市は総合窓口を行い、各町村の地域窓口と情報共有、連携、またフードバレーとたちの活動に賛同する企業・農林漁業者・団体等で構成される「フードバレーとたち応援企業」は平成29年6月現在401件登録されています。現在7年目の事業ですが、大手食品メーカー（山崎パン、フジッコ、明治）と包括連携協定を締結し、新商品の開発なども行っていました。

また、十勝人チャレンジ支援事業では、十勝の産業の発展に寄与する積極的な人材を育成・地域に輩出するために20代から40代の十勝人を対象に地域（国内・国外）に送り込み、十勝との違い（強み、弱み）を学ぶ等、自ら設定したテーマに基づいた研究・調査に対して1人上限100万円を支援していました。

この財源はどこからでるのかと質問したところ、フードバレーとたちの事業に賛同してくれている地元の企業の経営者がポケットマネーで寄付してくれたそうです。みんなが素晴らしい！と思う事業には資金も提供してくれる方がいるというのは非常に感動しました。支援事業を受けた方々の成果が今少しずつ出てきているようなので今後が楽しみです。

とたち・イノベーション・プログラムでは、地域の「稼ぐ」を創りだす、をモットーに革新者（外部の血）から刺激を受け、事業創発の場・しくみをつくり、新しい事業の種（起業・発展的事業展開・コラボレーション事業等）を発掘する取り組みも行い、2年間の成果としては20の事業構想が生まれ、その中から5つの新会社が設立したようです。

フードバレーとたちは、産業・仕事、医療、健康、教育、福祉、子育て、防災、エネルギーと広がっていました。

ここまでくるには行政の職員さんも大変なご苦労があったかと思いますが、非常に楽しそうに話をしてくれていたのがとても印象的でした。「とたち」というシビックプライドが職員さんの中にもあるのだろうと感じました。

龍ヶ崎市でも起業家支援の広域連携事業を始めたばかりですが、フードバレーとたちでの研修内容を踏まえ、生かせればと思っています。